

大阪体育学会第52回大会 シンポジウム

日本女性にみる武道文化の伝承と生涯学習について

A study of the transmission of Budo culture and Lifelong study from
the viewpoint of Japanese women

福田 啓子*

Keiko Fukuda

永松 女性のスポーツ。武道ということなんですけども、福田先生、よろしくお願ひ致します。

福田 先生方、初めまして、福田啓子と申します。先ほどの高橋先生のお話をお伺いしているうちに、私も長くなぎなたをやってきた理由を考える過程で、なぎなたの歴史研究に取り組みました。大学進学を父親に願いましたら、剣道を嗜んでいた父親は「なぎなたをしなさい」と言い、それが条件で奈良女子大学の入学を許可されました。この年齢ですから、四国から遠路はるばるやってきて、文学部の歴史に入学したのですが、父の条件であるなぎなたは入学以来ずっと続けました。それから大学院を卒業し、結婚後も、ずっと家庭を顧みず、子育てをしつつなぎなたを続けていたんですけど、50歳代になったときにふと、なぜ自分は奈良女子大に入学してなぎなたを続けてきたんだろう。父は何を言いたかったんだろう、長く続けていくってどういうことだろう。まさに、お題を頂いた、スポーツジェロントロジーという立場から自分のなぎなたをふり返って研究をした次第です。

なぎなたというと、野球やスイミングと比べて非常にマイナーですので、ご存じのない先生方も多くいらっしゃると思います。少しだけ紹介をさせていただきます。これはなぎなたの用具です(図1)。これは、650～850グラムの重

さです。現在、使っているなぎなたで竹の2枚刃、剣道の竹刀から工夫して作られたものです。戦後使用しているなぎなたは、非力な女子に合わせられて作られました。これは防具というのですが、なぎなたの操作方法はバリエーションが多く、長物ですので形(かた)をたくさんします。試合もするのですが、防具は小手に指がありすね当てを装着するという特徴がございます。

- ・ 大阪体育学会第52回大会 シンポジウム
- ・ テーマ「いのちが輝く生涯スポーツ」2014.3.16
- ・ 於 近畿大学
- ・ 発表者 なぎなた 福田啓子



図1

これは、全国に13本あり、届け出のある真剣のなぎなたです。奈良国立博物館に談山神社が所有するところの真剣のなぎなたで、実際持ってみますと非常に重くて、私も持つことが大変でした。3キロ以上あるかと思われま

鎌倉時代にはたくさんのなぎなたが作られて

* 奈良県なぎなた連盟理事長